みんなで子育て 子育ち 親育ち！

地域で子育ち 親育て！

各地域の子育て支援センターが「季節に応じた様々な行事や旬の事業」を紹介する

子育てHOTコーナー

各地域子育て支援センターでは、それぞれ趣向を凝らして1歳のお誕生会を行っています。

高島地域子育て支援センターでも、毎月1歳のお誕生日を迎えたお友達が集合します。にわとりに扮したセンター職員がバースデーケーキを運んできて、お誕生会がスタート！

手形、写真入りの手作りバースデーカードや保育園児の歌のプレゼント、わらべうたあそび、そして一緒に作った卵ボーロを食べながらお話をする交流タイムも設けています。

お誕生児を祝福するだけでなく、保護者の方に「子育てお疲れさま。これからも一緒に頑張っていこうね。」という気持ちを込めて心豊かな誕生会となるよう努めていますので、皆さん遊びにきてくださいね。

子育て奮闘中の保護者が綴るコラム

子育てのチョット いい話

この子のペースでいい

私の娘は、生まれた頃、成長が遅く、人見知りも激しく、とてもおとなしい子だったので、私も家族以外に相談できる人がいなくて不安でした。

保健師さんの勧めでマキノ児童館に行ってみました。先生や他のお母さんたちと話したり、また、娘が子どもたちと遊んだりするのを見ていくうちに「おとなしくても遅くても、この子のペースでいいんだ。焦ったり、心配したりしなくてもいいんだ。」と思うようになりました。

子育ては、一人で悩まないのが一番であり、それが私にとってもいいことなんだと思っています。

＝子育て支援センターへの問い合わせ＝

- ●マキノ地域（マキノ児童館内）☎(27)8187
- ●今津地域（今津東保育園内）☎(22)4833
- ●朽木地域（朽木保育園内）☎(38)2070
- ●安曇川地域（古賀保育園内）☎(33)1540
- ●高島地域（高島保育園内）☎(36)0660
- ●新旭地域（大師山さくら園内）☎(25)8439

配偶者からの暴力で悩んでいませんか

「配偶者からの暴力」とは

「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉を聞いたことがありますか？

これは、一般的には夫や恋人など親密な関係にある（過去も含む）パートナーから振るわれる暴力のことを言い、男性から女性だけでなく、女性から男性の場合もあります。内閣府では、人によって異なった意味に受け取られるおそれがある「ドメスティック・バイオレンス」という言葉は正式には使わず「配偶者からの暴力」という言葉を使っています。

暴力の事例

【身体的なもの】

・あたしが、何かいろいろ言った時、締めていたベルトを引っ張って抜いて、そのまま叩かれました。それでベルトのバックルに当たって、頭の上が切れて、3針ぐらい縫いました。（30代）

【精神的なもの】

・うちの場合は「言葉の暴力」がひどかったのです。私の成育歴や家族のことなどを悪く言ったり、私の欠点について延々と説教したり…。自分が言い疲れるまで何時間でも拘束するということが、しょっちゅうありました。（50代）

【性的なもの】

・いやな時も強要されて、辛かった。避妊をしてくれないので、ピルを内緒でもらって飲むようにしていました。それでも妊娠して、私が「産みたい」と言った時に、私のお腹をたたいて「堕ろせ」と言われて…。（20代）

※資料出所：内閣府「配偶者等からの暴力に関する事例調査」（平成13年）

相談してください

平成14年度に内閣府が行った調査では、女性の約20人に1人が生命にかかわるほどの暴力を受けており、被害者は圧倒的に女性が多くなっています。しかし、「助けてくれる人が誰もいない」「いつか変わってくれるから」といった心情や「世間体が気になるから」「子どものために」といった理由で、誰にも相談できず我慢している人も、まだまだおられるのが現実です。

どうか、ひとりで我慢しないでください。諦めないでください。あなたの力になれる専門家と機関があります。一本の電話から始められる穏やかで新しい生活があります。ご相談ください。

シリーズ「STOP THE 暴力」では、配偶者からの暴力について、その特徴や影響、相談先や対応方法を数回にわたり紹介していきます。

相談先

子ども家庭相談課 ☎(25)8517、市役所代表 ☎(25)8000
または、滋賀県立男女共同参画センター ☎0748(37)8739
または、滋賀県中央子ども家庭相談センター ☎077(562)1121

子どもが変わるとき

～ 中学校の先生からのメッセージ ～

「先生は、はじめは怖かった。でも、仲良くなってから、よく叱られたけど、私のことを真剣に考えていることがわかるので、先生の言う事が素直に聞けるようになった。」

これは、ある生徒が卒業後何年かしてからくれた手紙の一文です。

私たち大人には、子どもたちを健やかに育てていく責任があります。そのことを誰もが自覚しているものの「どう子どもたちに関わっていけばよいのか、わからない」という悩みをよく聞きます。しなければならないことはたくさんありますが、まずはできるだけ「時間と回数」をかけて、子どもたちに近いところで過ごすことだと思います。私たち大人は、目の前の行動を見て、ふさわしくないとすぐに「改めさせなければならない」と思いますが、子どもが「本当に心からそう思い、変化していく」ためには、まずは、一緒に過ごす中でありのままの様子を知り、子どもたちの実態から育ちへの働きかけをスタートすることが必要であることを、二十数年間、学校現場で担任をしてきて強く感じました。

だから私は、できるだけ子どもの中に行き、休み時間も一緒に過ごし、悩み・進路や授業・地域での活動・その他とりとめもないようなことなどあらゆる話をしてきました。目に見える変化はありませんが、これが子どもたちの生きる力になっていくと確信したことが何度もあります。

「先生、良い人」、この言葉から大きな変化を見たこともあります。

私は何年間も毎朝、生徒の登校までにトイレ掃除をしてきました（この他にも多くのことを登校までに行ってきました）。生徒の登校までに、活動場所を整えておくことは重要ですが、その生徒は、知られるはずのないそのことをどこからか聞きつけ、「先生、良い人」と私に言ったのです。それから、その生徒がどんどんと変化していく姿を見ることができました。

これは、期待していたことではありません。しかし、自分で言うのもおかしなことですが、子どもたちにとって大人の「貴い行動」というのが、きっと心を打つのでしょう。大人が、「見返り」を期待しない「貴い行動」をどれだけ行っているか。貴さを自ら評価するのは適切でないかもしれませんが、一度考えてみる必要があるのではないでしょうか。

他にも、私が見てきた子どもの変化はたくさんありますが、紙面の関係でこれだけにします。しかし、直接に子どもに関わって、子どもが変化したという実践を交流し合える場が今、必要だと思います。

（中学校教諭）

※シリーズ「現場から」または本ページのご意見、ご感想をファクスまたは電子メールでお寄せください。
ファクス番号は（25）5490、メールのアドレスはkodomo@city.takashima.shiga.jpです。